

冊	子	目	録
	落	穂	拾
			い

### 国立国会図書館所蔵和刻本漢籍目録稿

(『アジア資料通報』27巻11,12号, 28巻1~3, 6, 7, 9号 所収)



本目録稿に収録する和刻本漢籍は、2,261部。『国立国会図書館漢籍目録』(昭和56年末現在 1987年発行)と『国立国会図書館所蔵中国語・朝鮮語雑誌新聞目録 昭和61年末現在』(1988年発行)から採取した。

当館の五山版、古活字版、木活字版等の漢籍については、すでに解題・図録・目録類があり、蔵書内容を知ることができたが、江戸期の寛永以後幕末までの整版の方法による印刷が大勢をしめた時代の書物についても、かなりの蔵書量がある。同一の書名で最も多くの版種があるのは孝経の54種、次いで四書、五経、小学、三字経等の教本である。江戸期の和刻本漢籍の普及傾向をよく示している。また、幕末の西学諸誌の刊行には、漢籍を通して西洋の政治、科学等の知識を得ようとした先人の努力を見逃さない。紙面の都合により割愛した仏典約500部と明治以後出版の法帖・絵画を含めると、当館所蔵の和刻本漢籍は2,800部程であろう。



和刻本界の趨勢については、中村幸彦氏の「和刻本」(『中国文化叢書 9 日本漢学』所収)があり、江戸期を中心とする和刻本の書目は、長沢規矩也氏の『和刻本漢籍分類目録』『和刻本漢籍分類目録

補正』には網羅されている。

上記の資料と対照してみると、当館の江戸期の整版印刷による漢籍は、刊行の年代上からも、経史子集の各分野面からもむらなく収集されている。『毛詩草木鳥獸虫魚疏』(元禄11年)、『左逸』(明和元年)等『和刻本漢籍分類目録』には著録されていない書物もある。しかし、これまで研究調査や蒐集の対象とされることが少なかったためであろう、なお、未収のものもみうけられる。『史記』『後漢書』『晋書』『宋書』『南齊書』『梁書』『陳書』『南史』『北史』『新唐書』等次々と出版された正史類、書目では『四庫全書簡明目録』(享和2年序)、『韋蘇州集』(宝永3年)、『王昌齡詩集』(享保18年)、『補註李滄溟先生文選』(延享元年)、『滄溟先生集』(延享5年)、『兪州山人四部稿選』(寛延元年)、『巖滄浪先生詩集』(安永5年)等の別集類。また、木活字版であるが、『太平御覧』(安政2年~文久元年)、『佚存叢書』(寛政11年~文化7年)も未収である。現在まだ、これらの和刻本は入手しやすい価格で流通している。蔵書を基礎に和刻本出版の歴史をたどるだけの資料を揃えていくことは可能と思われる。



出版書肆、出版を企画した人々、読者、底本となった輸入漢籍等、遺された和刻本漢籍に関する事柄は、近世の日本の文化社会の諸相が窺える。準漢籍等の研究書や翻訳書、通俗書といった問題にも留意しながら、いま一度、時間をかけて和刻本漢籍に係ってみたい。

(アジア資料課 西田元子)